

私達にとつての『平和』

高知学芸中1年 山本 麻由さん



市と教育委員会では、平和について考え、平和の大切さを知る機会を持ってもらうために、毎年平和をテーマにした作品を募集しています。ことしは作文、毛筆、まんが・イラストの3部門に1034点の応募がありました。その中から、作文部門・中学生の部で最優秀を受賞した山本麻由さんの作文「私達にとつての『平和』」をご紹介します。

平和とは何だろう…。武力、武器を持たない安心、安全な暮らしを維持することではないだろうか。社会情勢が、武力紛争を起こさない状態を言うことであるだろう。

私は戦争を知らない。それは、私達の住む日本は、憲法第九条の「戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認」に守られているため、平和主義を貫き、戦争放棄しているからだ。だから、私達は幸せなことに、戦争に侵される不安な目に合うことなく、日々充実した生活を送られている。だが、果たしてそれだけでいいのだろうか。

世界の至る所では、常に国と国とで戦争がくり広げられている。そして、何の罪もない市民まで巻き込まれ、その犠牲になっている。なぜ戦争はくり返されるのだろうか。なぜ戦争はやめられないのだろうか。

一つに、戦争をししかける側が、私利私欲に走り、単なる金儲けの手段だと考えるからではないだろうか。つまり、保有する資源や原油、武器や弾薬といったものを高く売りつけて、莫大なる資金へとつなげているからだと思ふ。私利私欲のため、非人間的になつてしまい、人を人とも思わず殺しあう残酷な行爲となる戦争は、絶対にいいない。

日本は今年、終戦を迎えて六十六年になる。戦争を知らない世代がどんどん増えていき、戦争とは過去のものであると思われがちになってきている。私の周りを見ても、両親、祖父母まで戦争のことを知らない世代だ。

だが、あの残酷な歴史に刻み込まれた戦争の事実を、そう簡単に風化させ

てはならないと思う。

真珠湾攻撃に始まり、激化されていった戦争は、最初こそ日本軍に勝利をもたらされていたが、あまりにも軍事勢力に歯止めがきかなくなり、ついには、アメリカに制圧され出し、それをくい止めるため、軍事基地を作った沖縄にて本土決戦を持ち込まれ、沖縄本土の市民を犠牲にさせ、あまりにも残酷残虐な結果に至ってしまった。結果、日本は次々に各都市を爆撃され、ついには、広島、長崎に原子爆弾を投下され、終戦を迎えてしまった。

まさしく戦争とは、人としての人間らしさ（基本的な人権）を失った非人間的な正体そのものだ。

私達は、戦争を経験しなくとも、その過去の事実について無関心にならず、体験者からの話に耳を傾けながら、二度とこの様な悲惨なことはしてはならないということを次の世代へと受け継いでゆく努力を重ねなければならぬと思う。

歴史を知らない日本人になることなく、私達の先祖が大きな代償を払ってきた教訓、つまり、二度と戦争を起こさない、という切実な思いを継承していくべきだ。

そして、国際平和という観点からしても、世界中の人々が、安心して平和に暮らすため日本の果たすべき役割は何だろうか、と常に考えていかなければならない。

私は日々を充実して過ごすことができる。だが一方で、自分と同じ世代でも、戦闘の一員として戦場で戦わざるをえない人達もいる。同じ地球上にいて、このような格差があるという事実も忘れてはならない。

私達は、平和な日々感謝しなければならぬ。と同時にこの平和が当然のものとも考えてはならない。世界中の至る所で起こっている戦争をはじめ、いつ日本が巻き込まれないとは限らないからだ。

だからこそ強く思う。世界中の人々が、平和で安心な日々を迎えられる日がきつと来ると信じて、自分に正直で、常に相手を思いやる心を失わない人であらうと思う。一人一人が非力であろうとも、その気持ちが少しずつでも浸透しながら、そのたえざる努力を続けて、真の平和が維持できるだろうと信じて。

その他の最優秀受賞者

作文部門

島田遥楓(江ノ口小5年)

毛筆部門

小学5年の部 武内柚樹(小高坂小)

小学6年の部 西峯ひかり(附属小)

中学1年の部 村山真理子(土佐中)

中学2年の部 田村明日菜(高知学芸中)

中学3年の部 弘瀬なな(三里中)

まんが・イラスト部門

植田なのは(潮江東小5年)

刈谷仁美(城北中3年)

(敬称略)



この記事についての問い合わせは
総務課国際平和係 ☎ 823-9955へ